

道東地区教会連合会機関誌



道東 30 光報



'DŌTŌUKŌHŌ', Newsletter of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No. 30 Apr., 2013

巻頭言 信心 脱皮してこそ昇華す

金光教帯広教会長 田中東作

豪雪であった冬、朝夕の寒さ例年になく長く厳しかった冬も過ぎ去り、少しずつ穏やかでやさしい春の日差しが感じられる昨今。教祖様百三十年節目の天地金乃神大祭奉修の月、巳の年平成二十五年四月を迎えさせてい頂きました。(巳年、十二支の六番目へびとあります。脱皮して成長する)

○
暦の上での四月は、山川草木をはじめ天地の間に住む生きとし生くるすべての「いのち」が新芽萌え出で、生き生きと明るく精気充ち満ちて息吹き始める月、四月です。この天地金乃神大祭の月だからこそ、信奉者一人一人が信心に生きる自覚とご神

願成就のご用に立たせて頂く責任と使命に基づいて、この生神の道、生神金光大神取次の道、神人の道とは、どの様な道なのか、働きのなのか、生き方、生活ののかを明らかにすると共に、この道のご信心を求め頂くこうとする人の生活、生き方がこのまままでののだろうかと問い続け、求め続けることが信奉者として取り組むべき課題と思うところです。また日に日に全てにお世話頂いてお世話になつて生きる手順、手続き、手立ての道立てと行動はどうあるべきか、どうあらねばならぬのかを明らかにすることが生神の道を辿る者の生まれ変わるべきであり、生活の基本である巳の信心を脱皮し成長する

姿と願っている今日です。

○
この道のご信心は、神助かり人立ちゆき、神も、人も、金光大神も喜ぶご用のお役に立つ身、お育て頂く身に生まれ変わることであり、神の願い実現のお役に立つ身、神の氏子となることである。その成就の信心として、教祖金光大神様は、日に日に生きるが信心なり、日に日に改まりが第一との神のみ教えを信じ、承服いたし心定めて、神のいう通り実意につつましく辛抱努力し仕え、人徳、信徳をわが身に体して、信頼と尊敬されうる私に生まれ変わることであると信念いたすものです。

この信行を願ひ祈り続けること、神心もちて実意に努め努め続けることでわが心が癒され安心と立ちゆきのおかげを頂くと信念するものです。

○

「生神の道」一筋に神思召しいたし、実意につつましく生きる信心に取り組み取り進め、安心と立ちゆき、家繁盛、子孫繁盛のおかげの道立てについて心してまいらねばとならない事の一つに、只「祈っています、願っています、神様にお届けいたしました、御取次頂きました」というだけでは、また「一心に唱えていればそれでよし、それでのおかげになります」と考える人も多いけれども、それだけでは物事、事柄すべての生き方の上で神のおかげの成就とか幸せ喜び

の人生の成功にはなしえないものではないかと考えさせられている今日です。景気低迷にあえぎ、閉塞感漂う現代に生きる人の多くが生きる筋道と生き方の上に迷い深まり不信感が広がりゆく世の中となりつつある時代。この変わりゆく時代に生きる多くの人は皆、内向きとなり利己主義となり自分だけが、又は自分と家族だけが楽して損をせず無難に暮らせばそれでよしとする自己満足的な生き方が広まりつつあります。この難儀な生き方、難渋に満ちた不安な生き方を抜け出さなければ、脱出せねば救われなし、助かり立ちゆくことはなしえないものと思うものです。真に救い助かる道筋は「身に徳を受ける」ほかに道はなく、信心に改まりなくては、救い助けられ立ちゆくことは得られ

ないものと思います。改めて教祖様が貫き通された「実意丁寧神信心」のご内容と教祖様の思召し、願いに立ち返り、己の生き方、信心の改まりを通して「身に徳を得」人の助かるお役に立つ自分にお育て頂くことが緊急の願いであります。共々に真の信心「生神の道」「神人の道」を踏み辿らせて頂きましょう。

教会揭示板

教会からあれこれ

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―一三―六八三五
FAX 〇一五五―一三―六八三五

昨年12月はじめ、帯広教会責任役員であるHさんが82才2ヶ月で亡くなりました。昨年の秋ぐらいから入院をしておられました。が、あまりに突然の訃報で驚くばかりでした。

Hさんは地域社会でのご

用、老人会のご用と心を尽くしお役に立ってくださいました。また教会においても、責任役員、信徒会副会長として、教会、信奉者のためにのお役に立ちたいと楽しく喜んで、何でもご用していただき、教会にとつて大きな功績を残してくださいました。

教会連合会においても、研修会、パークゴルフ大会、隣接教会の大祭参拝などと交流や親睦を率先してご用をしてくださいました。昨年は帯広教会布教90年というお年柄を迎えて、責任役員として願ひ成就のおかげを蒙らせて頂きたいといろいろとご協力頂きました。そして11月11日の記念大祭には是非お礼の参拝のおかげを蒙らせて頂きたいと願ひしておりましたが体調も思わしくなく、娘さんが代参されました。後日、大祭の様子を写真をもつてお見

舞いに行つたときには非常に喜んでくださいました。Hさんには生前お世話になつたことにお礼を申し上げ、御霊様、H家の立ち行きを祈念申し上げます。

今年は教祖百三十年ということで、本部団体参拝させていただきま。改めて、教祖様の信心を求め、生かされ生きているという神のおかげにめざめ、お礼と喜びの心をもつていままでおかげを蒙ってきたことにお礼を申し上げます。

(田中)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二四三三九五四
FAX 〇一五二四三三九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

先日、特に御用ということもなく、まったくの私用で三泊四日の里帰りをさせて頂

きました。里帰りを二日後に控えた日、信者さんとお茶を飲んでいるとある方が「先生ちゃんと戻つて来てね。先生がいてくれないと大変なことになるんだから」とおっしゃいます。私は「大丈夫ですよ。私の戻る場所はここしかありません」と答えました。

こんな私でも、信者さん達が必要として下さっていることがとてもありがたくなりませんでした。しかし、時間が経つにつれて、私の心は落ち着かなくなっていました。はたして、これをありがたいこととして喜ぶだけでいいのだらうかと思うようになっていったんです。

今年は、網走教会布教90年の記念の年です。いまから92年前、後の初代教会長先生は天地の親神様の御伴をつかまつり、金光様のお手代わりとして網走の地に立たれました。それから二年後、信者さん方にとつても念願の教会設

立が認可されますが、さらにその二年後、初代先生は突然出奔されます。ようやく網走に教会ができたその矢先のこと、出て行かれた先生のことを非難するつもりもありませんが、よほどの事情があつたに相違ありません。

その後、後継に入られた二代教会長先生、三代教会長先生はそれぞれ7年、16年のご用の後病に倒れられます。そして四代教会長が後継に入られ、ご帰幽になるまで31年の長きにわたつてご用を仕えられました。その後、五代教会長先生が跡をお受けになりますが、諸事情により教会長を辞任なされ、平成10年よりは畏きご縁の中に不肖私がご用にお使い頂いております。こうして教会の歴史を振り返ってみますと約80年の間に教会長が六代を数えることになりました。

網走に後継に出立する前、ある教会の先生から、「およ

そ八十年の間に教会長が六人も変わるといふのは、代が続きにくい、布教も難しい教会ということになります。あなたの代で代が続くおかげをいただきなさい。」と御教え頂いたことを覚えています。

私はこの御教えの本当の意味にようやく気付くことができました。代が切れ間無く続く。そこに先生がいるということは、信者さんが、参り来る人が、安心して信心を進めることができる。安心してお取次を頂くことが出来る。そういう教会になりなさいということだったんです。

今は亡き信徒総代のSさんが江田教会のご大祭に参拝なさった時、大勢の参拝者の前で次のような挨拶をなつたことを思い出します。「教会に先生がいないということがの心細さ、不安というのが、あなた方には分かりますか！」

江田教会の信者さんはあつけにとられた様子でした。Sさんは、たとえ教会に先生がいなくても、そこに神様はいらっしゃるといふことで日参を欠かさなかった篤信な方です。そんな方が内心ではその様に思いながらお参りなさっていたんです。私は、これから先二度とそんな思いを信者さんにさせてはならないとの思いで聞いていました。

しかし、至らぬ私は、後継13年目にして個人的な問題で、またぞろ信者さんを不安な思いにさせていたのです。「独り身となった先生がこの先もちゃんと御用してくれらるだろうか。あまりの辛さに逃げ出すのではないだろうか」。そうした不安が「先生戻って来てね」という言葉に表れていたのです。ありがたいと思うだけでは心が落ちないと思ふ原因は、信者さんにその様な不安な思い

をさせているということに対する「相済まない」という思いだったのです。

私としては、これから先どの様なことになっていくのか分かりませんが、「神量^{かんりょう}らしいは奇しくて人の思いぞ及ばざる」もの、今のこの状況も私が通らねばならない道、網走教会が乗り越えなければならぬ道と受けて、布教90年のこの年をいよいよここから本当のご用が始まる年と定めて、御取次の道のご用に邁進したいと志を新たにしております。(菊川)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二
TEL ○一五五七一一三三三三
FAX ○一五五七一四二二三

函館出身で小説の魔術師と呼ばれた久生十蘭という作家をご存知でしょうか。その十蘭が太平洋戦争時、海軍報道班員として南方の占領地へ

行った際の日記が「久生十蘭従軍日記」として刊行されています。当時の軍部の検閲、作家達の自主規制をくぐり抜けて書留られていたもので、「当時の普通の大人の日本人の感覚が語られている」として話題になりました。

日記には、占領地での慰安所のはなし、連合国や占領地の住民にたいする行為や視線なども書かれています。そこには特別な憎悪や蔑み、悲哀などはなく、戦争中の普通のこと、昭和初期の大人としては普通のこととして綴られています(と読めます)。

終戦後、それまでの価値観や思想をリセットされた(かつそれまでの資料も廃棄された)今の日本人には、アジア、西欧諸国から慰安婦問題や戦地での行為などを指摘されても「？」という感覚が多いかと思えます。それらの問題に對し、根拠が無いと反論する、あるいは身内の恥だと詫げる

ということもありますが、先ずは当時の普通の人々がそれらのことについてどう接し、どう考えていたのかを知る必要があるのではないのでしょうか。そういう意味でこゝに書いた日記を読んでみるのもいいかと思ひます。勿論一般の読み物としても大変面白い本ですので、興味のある方はぜひご一読を。(玉置)

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL ○一五七一一四一七四七四
FAX ○一五七一一四一七四七四

去る3月某日に起きた航空機墜落事故の犠牲者の一人は、私のごく親しい友人のご主人でした。毎日、テレビや新聞等で様々なニュースを見聞きするたびに可哀想にと大変なことだと思ひながら、それらを祈るような気持ちで見守っていたはずでしたが、この度、今まではやはりどこか他人事とい

うか、傍観者的な感覚であつたのだということをお願い知りました。

発見され遺体となつて自宅へ戻るまでの数日間、驚きと不安や恐れと戦いながら、連日押しかける警察や報道関係、また全国から寄せられる見舞いの電話など、すべてが初めての経験に必死に対応する友人は悲しむ暇もなく、一種の興奮状態がそうさせるのか驚くほどの気丈さが近寄り難さををみせていて、それがあまりにも痛々しく気の毒で慰めや励ましの言葉など本当に失礼に思えるほどでした。

その友人から、無宗教で葬儀を行う内容についての相談を受けましたが、信仰を持つ人が減って個人の意思を尊重したやり方や遺族の都合を優先した自由な葬儀が増えている昨今、亡くなった人を本当はどう送るべきなのか、葬送ということの意味

を信仰を持つものとして新たに問い直さなければならぬのかもしれない。

人はあくまでも自分本位なもので、実際に体験しなければ身に染みてわからないものなかもしれないが、他の人の気持ちにより添い共感し、我が事として受け止めることの難しさを始め、覚悟して生きるこの大切さ、葬儀のあり方など信心する者として色々と考えさせられ思い悩みつづその真価を問われたように思う出来事でした。(矢代)

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL ○二五四―四一―三五一
FAX ○一五四―四一―三六一

ここ5、6年、大げさに言えよ10年ぐらい風邪をひいたことがない。もう風邪をひかない体質になったのかと思っていたら、4月2日に鼻がグジュグジュして咳が出た。とにかく、「ゴホンと言え

ば龍角散」と思つて、龍角散を飲んで寝た。ところが、咳がひどくて寝るどころではない。

母が、3月末から風邪をひいていて、病院に母を連れて行くのも難しいので、家内が病院に行き風邪薬を貰ってきて飲んでみた。それじゃあその薬を貰つてと、その薬を飲んでらぐつすり寝れた。朝、なんとか咳もグジュグジュも収まっていたので、そのまま様子を見ることにした。段々グジュグジュがひどくなり咳も出てきたので、昼食後、またその薬を飲んだ。その薬は8時間毎に飲む薬だったの

で、夜寝る前に薬を飲んだ。4日朝、まだ喉がイガイガするので朝9時に市立病院に電話をかけ、診察のお願いをした。市立病院の内科は、直接行っても受け付けてもらえず、私設病院の紹介状をもらわなくてはいけないのだ。私

の場合、リュウマチでかかつているから、受け付けて貰い、すぐ来てくださーいとのことで病院に行った。看護師に状況を話した後、すぐに呼ばれた。まずは血液検査。次にレントゲン検査。それが終わって待っていると「時間がかかるから暫く待っていてください」とわざわざ看護師に言われ、12時半頃漸く呼ばれた。

医師は、肺炎を疑っていたようで、いの一番に「肺は大丈夫ですから」と言われ、今迄飲んでいたリュウマチの薬の一部を「この薬は、今週中飲まないでください」と言われ、調剤薬局で薬を貰い、それを今朝まで飲んで、まだちよつとグジュグジュしているようだが、薬も切れたので様子を見ることにしている。これが、素人療法、風邪は万病の元と自戒している。母の方は3日には良くなり、4日のデイサービスにも行っていた。

(江郷)

行事報告

▼平成25年度道東地区教会連合会総会・委員研修会

・日時 平成25年3月17日

・会場 十勝教会

・出席者 15名

・内容 総会行事 平成24年度活動報告、会計報告

平成25年度活動計画案、予算案

・委員研修会 「教祖様の伝えたかったこと」

提言 釧路教会長・江郷繁樹師

行事予定

▼第13回道東地区教会連合会交流パークゴルフ大会

・日時 6月15日(土)14時

・会場 釧路近辺(当番・釧路教会)

▼教祖一三〇年道東地区教会連合会研修会

・日時 6月16日(日)午前中

・会場 釧路教会

・内容 「神人あいよかけよの生活運動」について

テーマ「育てようお礼と喜びの心」

▼青年家族交流会について

本年度は教区行事として「教祖一三〇年奉祝 KITA フェスタ130」が開催されます(8月2日～4日)。そこで道東地区で毎年開催している「青年家族交流会」について、この「KITAフェスタ」に参加することをもって代替することになりました。なお、道東地区から「KITA

Aフェスタ」に参加される方には連合会から参加費の助成を行う予定です。

▼連合会役員会

・日時と会場 9月29日(日) 北見教会

・連合会長、連合会信徒会長の改選があります。

▼道東地区各教会大祭日程

春 秋

釧路	5月26日(日)	10月27日(日)	午前11時
北見	5月3日(日)	11月3日(日)	午前11時
十勝	4月14日(日)	11月17日(日)	午前11時
帯広	4月21日(日)	11月10日(日)	午前11時
網走		10月13日(日)	午前11時
滝上	6月2日(日)	10月20日(日)	午前11時
網走教会布教90年記念大祭	7月7日(日)		午前11時

▼全国信徒会北四ブロック信心研修会

「教祖一三〇年のお年柄をいただく」

・日時 6月22日(土)午後1時～23日(日)12時

※どちらか一日だけの参加もできます。

・会場 ホテルノースシティ(札幌市中央区)

・内容 講話とパネルディスカッション

・講師 堀尾光俊師(大分県日田教会長)

・参加費 一〇〇〇円(宿泊費、懇親会費は別)